

スリランカの平和構築における女性の役割

ウィンダヤー・ウェーラトゥンガ（スリランカ）

スリランカの女性の地位は、この国の家父長制的価値観に多大な影響を受けており、そのため父親や夫の地位によって決まります。とはいえ、近年では女性が担う役割はその重要性を増しており、家庭や子どもの福祉に関して何らかの意思決定をする場合、夫婦が共同で行うまでに進歩しています。しかし総じて、女性は伝統や文化、地域社会の価値観などを育み、広める存在だと見なされています。

スリランカは 2009 年に終結を迎えるまでの 26 年間、激しい内戦に苦しんできました。また、1987 年から 1989 年にかけてはスリランカ人民解放戦線による反乱が深刻化し、さらに 1977 年と 1983 年には民族暴動が起きました。この国の歴史、特に武力衝突が勃発した時期を振り返ると、そこには陰の英雄たち、すなわち女性の姿がありました。

このように紛争が続き、息子や夫、もしくは兄弟が軍事活動に従事しなければならない中、最も苦難を強いられたのは女性です。経済活動を行っていなかった女性たちは、紛争によって一家の大黒柱である男性を奪われたことで、極貧状態に陥ってしまったのです。彼女たちは心に傷を負いながらも、とりわけ子どもたちのために困難に立ち向かい、生き抜かなければなりません。母親であると同時に父親、一家の大黒柱、家族を守る存在としての役割をも果たさなければならなかったのです。しかしこれを乗り越えることで、スリランカの女性のレジリエンス（逆境力）は高まっていったと言えます。長引く武力紛争は、未亡人、シングルマザー、女性世帯主の世帯の増加を招きました。このような経験から私たちが学んだのは、女性や女兒は男性や男児とは異なる形で、武力紛争やそれに伴う暴力によって影響を受けるということです。

この国が平穏な状態を取り戻した今、重要となるのは二度と紛争を繰り返さないために女性がどのような役割を果たせるかを考えることです。和平プロセスを進めるにはいくつものステップを踏まなければなりません。このプロセスには性別による著しい差が存在します。残念なことに、多くの和平プロセスの中で意思決定をする立場にあるのは、殆どの場合が男性です。その主な原因は社会全般、特に政治分野における女性の地位にあります。スリランカの女性は、この国の家父長制文化と苦闘してきましたが、中でも困難を極めているのが政治の世界であり、女性議員の数は極めて少ないのが現状です。

今後は、スリランカの政界により多くの女性を送り込まなければなりません。国会における女性議員の割合は 6% 以下であり、これは他の開発途上国の平均よりも低い数値です。紛争の根本原因は本質的に政治に関係していることが多く、それゆえ政治的解決が必要とされます。この国において持続可能な平和構築のためのプロセスを可能にするために、女性は貢献をすることができます。そして、政界で政策決定を行うような高い地位により多くの女性が就けば、その勢いはさらに加速するでしょう。

持続可能な平和を手に入れるためには、そのプロセスのあらゆる段階において女性が参画することが不可欠です。それは女性が平和構築のプロセスに新しい視点をもたらすことができるからです。なぜなら、彼女たちこそが武力紛争によってダメージを受けた「真の被害者」だからです。暴力に反対し、平和と民族融和を願う母親に育てられた子どもたちは、成長して大人になると自らも平和を願うようになるのです。これがまさに平和構築という正の連鎖の出発点と言えるでしょう。

国連安全保障理事会は、2000 年に決議 1325 号を採択することで、武力紛争そのものの性質が変化していることを正式に認めています。この決議では、近年武力紛争において民間人が標的にさ

れることが多くなっている一方で、女性が依然として和平プロセスへの参加から除外されているという事実に焦点が当てられています。ここで謳われているのは、戦争が女性に与える途方もない影響についてだけでなく、紛争管理や紛争解決、持続可能な平和の実現などにおいて女性が果たすべき極めて重要な役割についてです。スリランカの人口の51%以上が女性であることを考えても、平和構築プロセスに女性が積極的に参加し、パートナーとなることが極めて重要なのです。

要するに、女性は平和構築プロセスにおいて多面的な役割を担うべきです。そのために女性は第一に、自国の平和と融和に関わる事柄に対して、男性と対等に発言権を持たなければなりません。第二に、女性には家族の世話をする者として、子どもが生涯にわたり平和な暮らしを送ることができるよう幼い頃から導いてあげるといふ、大変重要な責任があります。第三に、戦争がもたらす悲惨な影響を実際に体験した女性たちは、平和主義者として次世代に対して信用や信頼を醸成することができます。スリランカには変革が必要です。そうすることで、女性が今後の紛争の防止や持続可能な平和の構築に向けた取り組みに参加し、多大な貢献をすることができるのです。

